

## 第2版 はしがき

本書は、2008年4月に初版を発行した『国際人権入門』の改訂版である。基本的な構成・執筆者に変更はないが、この4年間に起こった国際人権分野における重要な展開を反映するために、修正、削除、追加などを行い、実情に合わせる努力をした。その際、初版にみられた誤字や数字の誤り等を訂正し、不正確な記述や分かりにくい表現も改めた。

初版でも「はしがき」に書いたことであるが、本書は、大学の教養課程で教えられる国際人権論や国際人権法の入門書として用意されているが、国際人権に関心のある一般の読者にも興味をもって読んでもらえるよう記述や表現をできるだけ平易にすることを心がけた。最近、国際人権条約の国家報告制度のものと対日審査報告書や、日本による個人通報制度の受諾問題、さらには国連人権理事会による日本に対する普遍的定期審査（UPR）などについて、新聞やテレビ等で報道されることがあり、国際人権に関する一般の人々の関心が高まってきているからである。

2005年に国連の主導で始まった「人権教育のための世界計画」は、現在第二段階（2010～2014年）にあり、とくに警察官などの法執行官、自衛官などの兵士、大学や高等研究機関の関係者等に対する人権教育啓発活動の強化に力点が置かれている。日本では、人権は憲法をはじめとする国内法の枠組みで論じられることが一般的である。しかし、これらの人たちへの人権教育啓発活動においては、憲法の人権規定を身につけることが基本であるが、同時に国際人権への理解を深めることも強く要請されている。本書がそのような目的に少しでも役立つことができれば、幸いである。

読者の便宜のために、巻末に「条約・略語一覧」および「参考文献一覧」を付した。その際、条約等の署名数・批准国数等の情報に関しては、可能な限り2012年4月末の時点で統一するよう努めた。これらの資料作成においては、高岡法科大学の谷口洋幸准教授のご協力を得た。また、本書の表現や形式の統

一、索引の作成等の編集上の細部にわたって法律文化社編集部の方木和久氏にご尽力いただいた。ここに記してお二人に深甚の謝意を表したい。

2012年12月1日

執筆者一同を代表して

横田 洋三